

『この本を手にかけているあなたへ』

『昭和40年男』が考えていること。

『昭和40年男』を手を取ってくれてありがとう。2009年10月に創刊して以来、まもなく丸4年を迎えようとしている本誌だが、まだまだ知名度抜群とはほど遠い。おそらく、「なんだこの本は？」と、初めて手に取っている方も多いに違いない。そこで、『昭和40年男』はどんな雑誌なのか紹介させていただこうと思う。

本誌は、昭和40年に生まれた男性を対象にした雑誌である。冗談かと思われるかもしれないが、大真面目である。取材先でも「なぜ昭和40年限定なのですか？」と聞かれるが、それは編集長である僕が昭和40年生まれだから、信じられないかもしれないが、本当にそんな単純なことから、この『昭和40年男』は生まれたのだ。同じ歳の男たちを応援できるような、読めば元気が出るような雑誌を作りたいと思い、成長の途上で俺たちに影響を与えてきたであろう懐かしい出来事やアイテム、人、ソフトを多数取り上げている。

よく昔を懐かしむだけの懐古趣味の雑誌だと思われがちだが、僕にはそのつもりはない。当時夢中になったからこそ理解できる『共感』を通して、それらの懐かしい事柄のなかに込められた情熱を知ることで、全国に約80万人いるタメ年男たちの今の活力へとつなげたい。本誌はそんな夢を追いかけている。

最近、友人や知人、取材や誌面作りを通して知り合ったタメ年男たちと話している。健康や体力の衰えについての不安がよく話題にのぼるようになった。多くの昭和40年男の体は加齢的にひどくなっているのだ。先日もタメ年男6人で酒を酌み交わしたら、なんと半数の3人が薬の常用を余儀なくされているとのこと。スタン・ハンセン兄貴(62ページ)の「大事なものは健康管理」との説教には、僕を含め、耳が痛い者が多いことだろう。

また、肉体だけでなく、精神的に追い詰められているという話も増えるばかりだ。仕事、家族、親の介護、老後の不安などと、健康面では自虐的に笑っている連中もこれらの話になると深刻になる。苦しんでいる同世代は最近になって格段に増えているようで、編集部にも声が届いている。

こうした苦境を乗り越えるためには、なによりも元気が必要だ。本誌は、そんな元気のもの一つになりたいと思っている。そして、前を見てがんばっている、そんなタメ年男たちの気持ちをつないでゆけるような存在になりたいというのも『昭和40年男』が創刊以来目指している大きな夢だ。

編集長 北村明広

2013 October vol.21
昭和40年男
MESSAGE